

タウンミーティング あったかいまち「ふじみ野」を目指して  
日時 平成26年8月30日（土） 19時00分～20時40分  
会場 鶴ヶ岡コミュニティセンター（鶴ヶ岡3丁目）  
天気 曇り

参加者 36人



## 主な意見等

参加者 保育園の問題について、自分の意見と市長さんへの質問をしたいと思えます。一問一答と言うことだったが、考えてきたことがあるので言わせていただきたいと思います。

まず、6月16日、市長から亀居保育所、西保育所を3月いっぱい閉鎖するという話で、民間保育園に移るよという話があったのですが、私はその意見には反対かなと思っています。

その理由は、一つ目には、保育園に子どもたちが入るときに、入所許可書というのをもらっており、卒園するまで責任を持って保育をするということで、廃園というところで、切られてしまう。責任が保たれなくなってしまう。

その次の年には、鶴ヶ岡、亀久保のゼロ歳児をとらない、その年度にまた閉鎖するという話がありました。そうすると、4つの公立保育園が無くなってしまい、東上線から西側4つ無くなってしまいます。

先ほど市長さんが市民サービスの公平性の確保ということをおっしゃっていましたが、東上線より向こう側と西、特に大井地区がすごく市民サービスという点では公平性を欠くのではないかなと思っています。

また、保護者が保育園を選ぶという権利を突如奪ってしまうということで、信頼の問題もある。

それから、6月にお話があって、9月議会で決めて、3月に閉鎖というところすごく急ピッチですので、もっと粘り強く何年もかけて保護者が話し合う説明責任というものも果たされないというように思っています。

議会の広報を見ますと5月号の広報にいろいろ耐震とかを予算化すると書いてありますが、耐震をきちんとやらないというのはおかしいのではないかなと思っています。

それで、急遽署名が取り組まれています、全部で市内・市外あわせて、2万500くらいを市長に提出されていますが、これは合併してからこんな

にたくさんの署名が集まるのは初めてではないかと思えます。この重みを市長さんはどのように受け止めているのでしょうか。

特に私は鶴ヶ岡に住んでいるので、鶴ヶ岡保育所から元気な声が聞こえなくなり、この地から子どもたちの育つ力がなくなってしまうのは、とても寂しいと思っています。

質問は、いくつかありますが、1つめは、2万588筆の重さ、その声を市長さんはどのように受け止めてくださるのか伺います。

2つめは、昨年上福岡地区の滝保育所の耐震が完了したとされていますが、その耐震はいくらかかったか、亀久保保育所とかいろんな保育所で耐震らしきものをやっているようです、天井に網を張るとか、ガラスが壊れないようにするとか、滝保育所の耐震の予算に比べて、それぞれの耐震のお金がいくらかかっているのでしょうか。

3つめには、5億5,700万円の民間保育所への整備補助金があると5月号に書いてありますが、市長さんは民間保育園に対しては5,000万円くらい補助すると言われています。3園開設すると、1億5千万円くらいですが、この広報を見ると約5億5,700万円の補助金が建設補助と書かれていますので、金額の違いはどういうことでしょうか。

また、4つの保育園を閉鎖してしまったら、子どもたちの待機児童の受け皿がなくなり、やっぱり溢れ出すと思いますが、そのことをどう考えるか、お聞かせください。

市長 保育所の関係ということで、今反対運動が出ているので冒頭で説明した市の取組内容の中ではお話ししませんでした。これについては、保育所をつぶすとか、いろんなビラが配られています。

何が一番大切かと言えば、ご家庭で保育できない環境であるお子さんたちに保育をして差し上げる、また、より一層の女性の社会進出の面など、様々な目的で保育事業というものを行政で行っています。

先ほど様々な説明をしたとおり、全てを公で担っていくというのは当然無理があります。というのは、市町村においては、国の法律や制度に基づいて運営をしています。現在保育については、公立については建設についても運営についても一円の補助金はありません。

ですので、どこの自治体においても待機児童の解消を図るためには、ちゃんと公が認可をした民間の保育所に委ねていこうというのが、待機児童対策として有効であろうと思います。

今回の亀居保育所と西、亀久保、鶴ヶ岡の4園は、耐震診断の結果、耐震性が良くない、耐震強度不足という指摘がなされました。

そもそも、耐震改修促進に関する法律の特定施設について保育所の場合は、床面積が500㎡以上の施設が該当になります。先ほどの滝保育所は500㎡を超えています。その近くにある新田保育所は430㎡です。70㎡の違いで、何もしなくていいということにはなりません。耐震診断をやらずに、万一地震が起きて子どもたちが下敷きになった場合、誰が責任をとるのかということで、500㎡未満であっても耐震診断を行いました。

その結果が、亀居、西、亀久保、鶴ヶ岡の4園について非常に耐震性に問題があり、特に亀居と西保育所については良くありませんでした。

本来であれば、今すぐにでも公共施設のフロアを使ってでも保育をしたい気持ちでいます。決断するまでの間、なんとか耐震補強で維持できないかということ、子どもたちが通い慣れた園を使わせて上げることはできないかをぎりぎりまで検討させていただきました。

市の建物ではないので、地権者である大家さんにやってもらうという課題があります。市がお金を出して近くに建て替えるとなると、建てている間は、危ないものを使わなければならなりません。

しかしながら、市としては、建設からその後の運営まで1円も補助金がない公立保育所を新たに建てるより、認可保育所を多く建てたほうが良いと考えています。

私も子ども2人を公立保育所でお世話になった一人です。子どもたちを親から離れて子どもに泣き叫ばれる、それはつらい思いもあります。保育所の先生になれてお願いをして、せっかくなれたところから移るということで、心情は私も理解しております。

何より大切なのは、万一地震が起きて、つぶされたときに、誰が責任をとるのか、親御さんが一筆入れていただいたって、訴訟に発展すると思います。

市民の血税を受けて、運営をしている保育でもあるので、コスト面では国の制度に従っていくべきだと思います。

署名の2万588筆について、どう思うかについての質問についてお答え申します。「保育園がつぶされると言うことでかわいそうで書いた」という人が多くいました。そこで、耐震強度不足のことを話すと、「それなら安全な園の方が良い、署名しない方が良かったですね」という方が大半でした。

また、2万筆のうちの1万筆が市外の方でした。

ですから、きちっと事情が伝わっていて、本質的に子どもたちを安全な園に移すと知った上で反対をしたのであればその一筆一筆がかなり重いものと思いますが、それは私の方で理解できない部分もありました。

それから、滝保育所の耐震にはいくらかかったか、の質問でございますが、約7,000万円くらいです。

先ほど民間保育園に5億5,700万円の補助ということで、園に対して5,000万円の補助と言っていた数字とが合わないということですが、5億5,700万円は国や県の補助を含んだ金額です。市としての持ち出しは1園約5,000万円程度でございます。

待機児童のご質問でございますが、今回の耐震強度不足で移っていただく園について、耐震強度不足が明らかになる前に、認可保育所を3園開設する予定でございました。それによって、283名の待機児童の解消を図るのが私の計画でした。しかしながら、待機児童の解消を図っていくのはもちろんですが、耐震強度不足で危険だという指摘を受けた以上、危険なところから安全な園に子どもたちを移してあげるのが最優先課題であり、西と亀居の方々に移っていただいた後は103名の待機児童の解消に繋がると思います。

さらに28年の4月にも3園程度の認可保育所を開設したいと考えていま

す。鶴ヶ岡、亀久保についても、できるだけ早期に亀居と西に比べれば、耐震性は若干上回ってはいますが、できるだけ早期に安全な園に移っていただきたいと思っております。

現在やろうとしているのは、耐震補強工事をしないで応急的な措置であります。天井等の落下防止の工事を進める予定です。

- 参加者 環境のことについてお話というか、市長にお願いをしたいと思えます。私が住んでいるところに、フットサル場があります。去る6月22日付の神奈川新聞に、フットサル場について騒音と夜間照明によって、住民がすごく反発したという報道がありました。早速私たちは、どんなところに、どんな環境で造られているか、調査をしました、そのことについての詳細は省略します。フットサル場について、土地所有者が今年の2月に社会福祉法人に土地を売却されました。住民としては、所有者である社会福祉法人と、運営会社、住民3者の協議をしたいと要請文書を今年の9月から11月にかけて3度お出ししてはいますが、一向に先方から文書に対する返答がありませんでした。非常に私たちは苦慮しているのですが、社会福祉法人にお声かけをしていただいて、是非住民との話し合いをしていただけるような場を作ってもらいたいです。こんな話は市長にとって非常にご迷惑なお願いになると思いますが、よろしく申し上げます。

- 市長 この件については、前から懸案としてこの地域の課題として重く受け止めています。今までの経緯の中で、皆さんが大変お困りだと言うことで、県の調停でも思いが通じなかったということも重く受け止めて、市長としては住民の方と運営会社の関係で、行政的な指導をする立場の場合は介入しますが、民間と民間については、行政が不介入ということで、市長の立場ではなく1市民としてお役に立ちたいということで、双方のお話し合いの場を持つまではやりましたが、平行線で歩み寄れないという状況です。そういうなか、土地の権利者が変わったということで、3者協議を要請していますが、応じてしてもらえないということです。われわれも権利者が変わったということで、できるなら権利者のかたに土地の活用の仕方を変えていただきたいという願いがあります。そのなかで、なかなか行政として、こうしなさい、ああしなさいとは言えないのですが、皆さんの思いに叶うようなかたちにもっていければと思っています。ですので、むしろ3者協議なのか、あるいは社会福祉法人との話し合いなのか、私も市民の関係に行政として介入するのではなく、何らかのみなさんのお力になればと考えていますので、是非御理解いただければと思います。

参加者 鶴ヶ岡3丁目は非常に住みよいところでございます。  
先般の広島での土砂災害や大雨による水害も鶴ヶ岡と言うことで、非常に安心というか、水害がほとんど無いと思っています。  
しかし、一番心配なのは、栃木県で会ったような突風や竜巻があった場合です。まず予測が出来ないし、防ぎようがありません。もしもそのようなことがあった場合、行政にどのように連絡すればいいのか、もし家が破壊されて屋根が飛ばされた場合、応急措置をどのようにしてくれるのか、個人的には本当に手の施しようがない、この連絡方法は市としてどう考えているのでしょうか。  
もし応急措置する場合、連絡すれば30分くらい出来てくれるのか、危惧があります。  
元々この地域は非常に風が強いところでございますので、突風や竜巻が起これないとも限りません。市全体でなく、何十軒くらいがやられるというものと思います。  
被害を受けた人たちだけが色々と苦労することになりますので、市として迅速に対応してくれるのでしょうか。  
このように家屋が突風に遭う前の備えに、何か援助はあるのだろうか、それをお聞きします。  
突風があつて破壊された場合は、個人個人がどういふように対応すればいいのか分かりません。もし雨が降っていたら、そこの家は大変なことになります。応急措置をすぐやっていただけるのでしょうか。

市長 ご指摘のとおり、このエリアは比較的自然災害に強いエリアと思います。ふじみ野市全体が関東ローム層のエリアであり、周辺より比較的地震にも強いです。  
ゲリラ豪雨等で雨水の排水量が一時的に管の口径よりも上回ってしまい、どうしても一過性の排水が出来ないということもあります。  
ご指摘のとおり最近の災害の被害としては、埼玉県においても竜巻というものも、今まで以上に不安な部分と思います。  
よくテレビで竜巻の注意情報が出ますが、竜巻の場合は、発生確度（確率の度合い）が一定の数値以上となった場合には、テレビでも示され、地域にもご連絡あるいは防災行政で流そうということになっております。  
どのくらいの確にお伝えするのか、そのような方法論については今後検討したいと思います。  
発生確度には段階がありますが、竜巻がおきそうだという情報は市民の方に周知しようと思っています。  
もし竜巻が発生して、屋根がめくれ上がった場合の応急処置ですが、原則として、個人の財産については市として直すことはしません。しかし、看板が倒れる、屋根が倒れるなど、二次的な被害が起これるような場合は応急的な対応はしたいと思います。  
屋根が剥がれてしまって住めないような場合は、申し訳ありませんが罹災

者住宅や学校等の避難場所、公民館などに一時的に避難をしていただきますが、修繕については、自己負担になってしまうと思います。

ただ、これが一定の件数がある場合には国からの支援・見舞金もあると思いますし、埼玉県が独自に国の制度以上に何とか救済しようということで、市町村でお金を出し合って竜巻被害に対する資金的な援助の制度も作りました。

参加者 先ほどの保育所の問題で、「保育所が無くなってしまおうと思って署名をした」というようなお話でしたが、亀居保育所がなくなると、あの地域には保育所がなくなってしまいます。

そこに預けている人が、他のところを利用することになると、30分以上も子どもを自転車に乗せなければならないとか、今度新しく出来る保育園もずっと離れていて住宅の中で道路が狭い、聞くところによると、新しく出来る保育所はそういう受入の仕方をするのではなく、建てようとしているという話をしています。

問題は、三角小とか西原小の学校に通うお子さんたちが育つであろう地域に保育所がなくなることです。

これからこのまちで育つ人や今まで保育所を造っていった人たちの気持ちを大事にさせていただいて、「子育てするならふじみ野市」という市報を出されたかたなのですから、耐震性が問題なら、ジャパンのところに空き地があるので、三芳町みたいにプレハブ建てるような方法もあります。

保育所に入られたかたが卒園するまで市が責任をとらなければなりません。「6月に言って、3月に廃止というのはあまりにもひどいとやりかたではないか」と聞いています。

保育所を守って、保育所を育てていただく立場に立っていただきたい。市長の考え方を聞きします。

市長 繰り返すとなりますが、子どもたちの安全確保が第一です。

ご提案いただいた、「プレハブを建設して」ということを簡単に言われていましたが、プレハブを造ると言うことは、保育所の代替え施設としてのプレハブですから、調理室とかも兼ね備えるとともに、今実際に耐震性がない保育所が借りていますから、そこ以外のところを借りなければならないという問題も発生します。

プレハブの設置と撤去のお金がかかる以上、1年、2年でそのプレハブをなくすということも出来ないと思います。そうすると、そのプレハブというのは公立として造らなければいけないこととなります。運営費、プレハブ設置については、1円も補助も出ないというのが、今の国の制度です。

コストは最小限に抑えた中で、三芳町の例を言われていましたが、代替えの民間保育所が、283名の定員で造る予定です。当初そういう方々の受け入れ先とは思わないでいたとおっしゃっておりますが、どんな子どもたちが来ても受け入れられるのが保育所だと私は思っています。「受け皿がないから

プレハブを造る」という事例もありますが、私はそうでは無いと思います。

先ほど説明不足もありましたが、今の国の制度でどれだけ違うかについて、1点例を挙げてみますと、ふじみ野市立の1人のお子さんについて市の予算の中から支出するのは約130万円です。民間の認可保育所は、国や県から補助金があるので、市としての持ち出しは40万円です。市立保育所1人分の予算で民間の保育所3人分を預かることが出来るので、国の制度に基づいて民間保育所を建てれば、待機児童解消に繋がります。

待機児童対策と併せて耐震強度不足の安全対策というものが、一番大事だと考えています。

それと署名の問題ですが、私の言葉が足りなかったと思いますが、先ほど、「2万何筆という合併以来初の大量署名ということにどう思うか」ということで、数字的なことを申し上げましたが、半分に近い1万筆が市外の方、調べていくと非常に残念なことですが、正規職員の保育士、非正規・パートの保育士も含まれていました。私は子どもの安全について保育に携わっているかたがそういう署名をすることに、私も保育士の方に説明が足りなかったという反省もあります。

例えばゼロ歳児の場合ゼロ歳児3人に保育士1人です。1人の保育士が大きな地震が起きた場合に、ゼロ歳児の乳飲み子を3人抱えて外に出られるでしょうか。そのことを考えたときに、自分の子どもだったら、自分が保育士、自分がその子どもたちの親ならば、やはり安全対策が一番だと思います。

参加者 8月27日、3丁目に侵入・窃盗がありました。私の住んでいるところの近くです。スライド式のお勝手口のドアに網戸があって、ちょうど鍵をかけてなかった。27日の未明から朝方。その人たちは、2階に住んでいて、1階でも寝ている人が居た。網戸をライターで開けられてしまい、リビングの脇が寝室でしたが、お金を全部持って行かれてしまいました。3丁目ですので、ちょっと気をつけてください。

4丁目もその当日やられています。27日の花火見物に出かけていて、帰ってきたときにやられていました。4丁目の旭化成のあたりだそうです。

近隣に被害が出ないとも限らないので、格子が付いているから大丈夫なんて思わないで、しっかりと鍵を閉めてください。2階の鍵もかけておいた方が良いでしょう。

参加者 何度かお会いして申し訳ないのですが、保育園の関係は筋が通ってないと思います。

命が大事といっているわりには、耐震補強もしないと言うし、保護者が納得する方式を考えていただきたいのです。

先ほど、署名の中に職員も入っていたと言われましたが、その職員を把握することは良いことなのか確認させてください。

また、9月の市議会で保育所の廃園のこともありますが、その他にどのようなことが議会で審議がされるか、ホームページでよく分からなかつ

たので教えてください。

市長 署名の扱いについて、駅などのビラ配布に保育士の方が中に入っているのは、直接的に地方公務員法に直接抵触するとは考えていませんが、子どもたちの安全確保という方針を決定した中で、公立保育所の保護者の方が、「何で保育士がそこに参加しているのであろう」という不安や動揺を与え、きちっとした説明が出来ない状況を生み出している心配がありました。そのなかで、様々な運動に保育士の方が入っている実態の中で、入っていたということを確認したところです。

署名をしたから、何か懲戒的な処分を受けるとかではありません。「私の説明が保育士たちに伝わらなかったという反省を含めて」と申し上げたのは、そういった経緯があります。

耐震について、きちっとした説明・方針ですが、先ほども申し上げたとおり、滝保育所でも7,000万円ほどかかりました。建て替えた方が早いのではないかというような金額がかかるのは事実です。

市としては、公立保育園を新たに造っていく方針はありません。

今あるものが危ないので、今から建て替え始めるにしても設計をして建築をするとすると、来年の4月までに間に合うという話ではありません。本来であれば、もっと早くに、どこかの公共施設を使ってでも安全な園に移ってもらいたいのですが、現状の中で公立保育所を新たに造るという方針決定は出来ません。

小中学校の耐震補強についても莫大な費用がかかるので、年次計画で直してきました。保育所の場合は3歳くらいでも、自発的に避難をするのは困難な状況で、ゼロ歳児でも3人に1人の保育士という配置基準でもあり、年齢が上るに従って、多くの子どもたちを1人の保育士がみなければなりません。万が一の避難をするときの落下物防止の応急措置はした中で、できるだけ早く新たな園に移っていただきたいと思います。

別の方の質問の中で、保育所を選択する権利というようにおっしゃっていたが、保育所のご希望はいただいて、ご希望に添う形をとっています。しかし、第一、第二、第三ということで、なかなか第一希望がとおるというのではなく、公立であったり、民間であったり、居住地から駅利用なのか、お勤め先の経路なのか、それでもなかなか希望に添ったところには入れないという実態もございます。決して、認可保育所か公立保育所かという議論では私は無いと思います。ただ、公立がいいんだと主張展開するかたもいらっしゃいますが、市としては、今の国の制度で民間の保育所を増設して、待機児童対策、子育て支援を進めていくのが市の方針でございます。

参加者 プールのことでお聞きしたいと思います。11万都市であって、どうしてプールがないのでしょうか。プールがあって、林があって、そういう施設は高齢者の憩いの場所であり、子どもの憩いの場所です。何で造らないのかお聞きします。

市長 現在でも、市の単独で市営プールがあるのは、従来あったプールを維持しているような市でまだあります。

新たに造っていくのは財政的にも厳しいものがあります。

今自然増で社会保障の関連の費用が増加してきており、来年度予算の概算が出てきましたが、本年も30兆円の大台に乗った、来年は31兆円で、毎年1兆円ずつ増えています。

これは、ふじみ野市もまったく同じ状況でございます。

その中で、「プールがどうしてないんだ」というご要望を理解する面もありますが、旧大井のプールは事故後に解体し、旧上福岡のプールも老朽化して、プール自体が使えない状態で解体すら滞っている状態です。

これから市のレベルでプールを造るのは非常に困難で小中学生についても、できれば県営の川越水上公園を使っていただくとか、夏休みにはスポーツジムのプールに協力いただいて、子どもたちに使っていただくことにしました。昨年までは学校のプールを西側・東側で1校ずつ開放していましたが、利用者が非常に少なかったので、今年度はスポーツジムの方に御協力をいただきました。

先ほどの説明の中にもあった「持続可能なまちにしていきたい」ということは、皆さんに安心して暮らしていただきたいということですが、健康保険にしても介護保険にしても給付費がどんどん膨らんでいます。本来ならば、もっと手をさしのべたいお年寄りに対する福祉施策あるいは障がいのある方に対する予算措置について、もう少し手厚くしたいというのが本音ではあります。

プールがあればすばらしいことですが、今の状況の中では造ること困難なことと思います。

参加者 さきほど、9月議会は他にどんな話をするのですか、と質問をしたのですが。

市長 市議会の定例会は、3月、6月、9月、12月で年4回の定例議会があります。3月の議会では予算を審議するのですが、9月は、前年度の決算について整理した後で9月の議会に報告してしまして議会で質疑があります。

決算が確定して、前年度から繰り越した財源について、予算として繰越金が確定するので、9月も補正予算を組むことになります。

毎回議会に提案されるものとして、道路の認定や道路線の廃止、あるいは様々な国の法制度にもとづいて、ふじみ野市の条例を改正したりするものもあります。

時間的に公表した時期と実施する時期が短いとおっしゃられていますが、最後の最後まで、耐震補強とか、何らかの手立てなどぎりぎりまで考えてきました。しかしながら、結論として今回正直つらい思いはありますが、この

判断をさせていただきました。

参加者 亀久保保育所とかでの落下防止の費用をお聞きしたのですが、議会で予算化されているのに、きちっとした耐震をしないのでしょうか。

議会報告をみますと、耐震にお金をかけると書かれています。保育所にお金をかけると書いてありますよね。

市 長 議会で予算化したのが、落下物防止のための工事です。

参加者 根本的な工事ではないですよ。

市 長 落下防止については、応急的な措置ではありますが、1園500万円を4園予定しています。

参加者 きちんとした耐震ではないですよ。

市 長 むしろ、耐震ではなくて、耐震が確保された保育所に移っていただくものです。

(閉会時)

市 長 今日は貴重な時間をいただき、ご参加ありがとうございました。

私今回保育所の耐震強度不足に対する子どもたちの安全確保という政策を進めているのですが、その中で、市の方針について、違うというご意見の方もいらっしゃるということで、ご意見も出るということも想定していましたが、それに特化した内容で時間をかなり割ってしまったことは申し訳なく思っています。

保育園の関係については、ふれあい座談会の場なども設けさせていただいて、限られた時間の中でお話をしてきた中ですが、多くの方に伝わっていたかということそこまでは至っていないとも思っております。私としては、行政の原点は市民の命を守ることと思っています。その方法論についてご異論をお持ちの方もいるかと思いますが、全てが市民の方の血税をいただいて運営している行政サービスです。

本来サービスというのは、まったく一方的に提供されて振る舞われるということでは無いとは思いますが、そのなかで、公平性や受益と負担とか、一番根幹をなすのは、やはり市民の命と認識しています。

今日ご参加いただき、タウンミーティングが開催できたことはふじみ野市にとっても、大変重要なプラスに変わっていくものと認識しています。これから様々な課題があるかと思いますが、皆様の御協力の下に、ふじみ野市がさらに住みよい、住んで良かった、そんなまちにしていきたいと思いま

すので、よろしくお願ひ申し上げます。

本日は長時間にわたりまして、ありがとうございました。